

取扱説明書

このたびは、ヤマハパワードスピーカーシステムDBRシリーズ(以下DBR)をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。DBRの優れた機能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用前に必ずお読みください。また、ご一読いただいたあとも、不明な点が生じた場合に備えて、大切に保管いただきますようお願いいたします。

- 裏面の「安全上のご注意」をご使用前に必ずお読みください。
- 本書では、特にことわりがない場合、イラストはDBR12を使用しています。
- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の製品仕様と異なる場合があります。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

特長

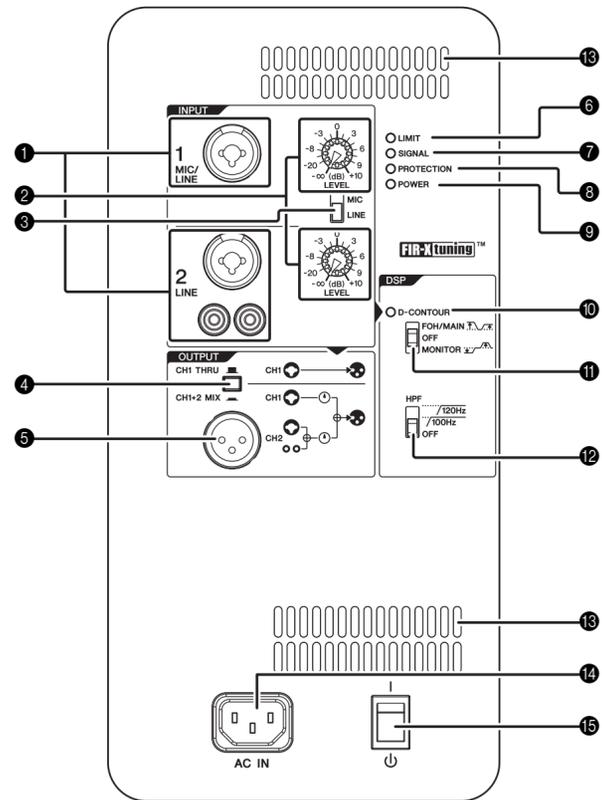
- FIR-X tuning™**  
リニアな位相特性を持つFIR (Finite Impulse Response) フィルターを用いた独自のプロセッシング技術により、クロスオーバーポイント付近での位相干渉がきわめて少ない、スムーズな周波数特性と分解能に優れた音質を実現しました。
- D-CONTOUR (Dynamic CONTOUR)**  
使用するアプリケーションや人間の聴感特性に応じて、各周波数のレベルを最適化します。メインスピーカ用のFOH/MAINモードと、フロアモニター用のMONITORモードがあります。
- 簡易ミキシング機能**  
簡易ミキシング機能を搭載していますので、チャンネル1 (CH1) 入力のスルー出力 (パラレル接続)、またはCH1 とCH2のミックス出力を選択できます。
- 多様な入出力端子**  
ミキサーからはXLR、電子楽器からはフォーン、MP3 プレーヤーからはRCAピンと、さまざまなプラグを本体に直接接続できますので、多様なアプリケーションに柔軟に対応します。
- 軽量ハイパワー**  
新開発の電源とアンプにより、小型軽量かつ大出力を実現しました。
- 高度な保護機能**  
DSPによる高度な保護機能を搭載しています。このため厳しい環境下でも安心してお使いいただけます。

付属品(お確かめください)

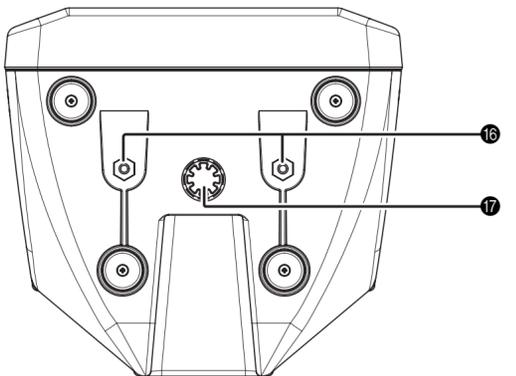
- 電源コード
- Technical Specifications (スペックシート、英語のみ) : 仕様、ブロック図、寸法図が記載されています。
- 取扱説明書 (本書) : 保証書が裏面にあります。

各部の名称と機能

背面



底面



**1 入力端子(CH1とCH2)**  
XLRとフォーンの両プラグに対応した、バランス入力のコンボ端子 (CH1 とCH2) とRCAピン端子 (CH2) です。コンボ端子にはミキサー、マイク、またはキーボードなどの電子楽器を接続します。RCAピン端子にはMP3 プレーヤーやCDプレーヤーなどの機器を接続します。ミキサーなどのレベルが高い機器を接続する場合は、CH2に接続するか、CH1に接続して[MIC/LINE]スイッチ(●)を[LINE]にしてください。



- 2 [LEVEL]ノブ**  
各入力端子 (●) の入力レベルを調節します。
- 3 [MIC/LINE]スイッチ**  
CH1 への入力レベルに応じて切り替えます。マイクなどのレベルが低い機器を接続するときは[MIC]、ミキサーなどのレベルが高い機器を接続するときは[LINE]にします。
- 4 出力切り替えスイッチ**  
出力端子 (●) への出力信号を切り替えます。  
[CH1 THRU] : CH1に入力された信号がそのまま(スルー)出力されます。CH2の信号は出力されません。  
[CH1+2 MIX] : CH1 とCH2に入力された信号がミックスされて出力されます。
- 5 出力端子**  
バランス型のXLR端子です。別のDBRなどを接続します。●で選択した信号を出力します。
- 6 [LIMIT]インジケータ**  
出力がアンプの最大出力電圧を超える場合、または過大な積算電力を検出した場合に、リミッターが作動して点灯(赤)します。点灯し続ける場合は、入力レベルを下げてください。

**Note** 積算電力とは、単位時間あたりにスピーカユニットに供給された電力量の総和です。

- 7 [SIGNAL]インジケータ**  
音声入力信号が最小閾値を超えると点灯(緑)します。
- 8 [PROTECTION]インジケータ**  
保護回路が作動すると点灯(赤)します。以下の場合に保護回路が作動し、スピーカへの出力がミュートされます。
  - アンプの過熱を検出した場合
  - 過電流を検出した場合
  - 電源をオンにした場合: ノイズ防止のため、数秒間、保護回路が作動します。正常に起動するとインジケータが消灯します。
 保護回路が作動した場合、アンプの熱が下がるまで待つか、電源を入れ直すと復帰します。復帰しない場合は、ヤマハ修理ご相談センター(裏面)にお問い合わせください。

- 9 [POWER]インジケータ**  
[I/⏻] (電源) スイッチ (●) をオンにすると点灯(緑)します。
- 10 [D-CONTOUR]インジケータ**  
[D-CONTOUR] スイッチ (●) を[FOH/MAIN]または[MONITOR]にしているときに点灯(黄)します。
- 11 [D-CONTOUR]スイッチ**  
D-CONTOUR (Dynamic CONTOUR) のプリセットを切り替えます。  
[FOH/MAIN] : メインスピーカとして適した周波数特性になるように高域と低域を持ち上げた設定です。  
[MONITOR] : フロアモニターとして明瞭性に重要な中高域を聞こえやすくし、床置きしたときにブーミーになりがちな低域を抑えた設定です。  
[OFF] : D-CONTOURがオフになります。汎用の周波数特性の設定です。
- 12 [HPF]スイッチ**  
ハイパスフィルターのカットオフ周波数を切り替えます。[120Hz] や [100Hz] にすると、その周波数以下の低域がカットされます。DBR単体で使用するときは[OFF]にしてください。サブウーファーと一緒に使用するときは[120Hz]または[100Hz]にすることをおすすめします。

- 13 通風孔**  
本体には冷却用ファンが装備されています。ここから吸気や排気が行なわれますので、障害物などで通風孔をふさぐことのないようにご注意ください。
- 14 [AC IN]端子**  
付属の電源コードを接続します。まず本体と電源コードを接続し、次に電源プラグをコンセントに差し込みます。

- 15 [I/⏻](電源)スイッチ**  
本体の電源をオン (I) / オフ (⏻) します。音源 (外部機器)、本体の順に電源をオンしてください。電源をオフにするときは、本体、音源 (外部機器) の順にオフにしてください。

- 注意**  
電源コードを接続したり、取り外す前に必ず電源をオフにしてください。
- 注意**  
電源スイッチがオフの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは、必ず電源コードをACコンセントから抜いてください。
- Note**
  - 電源スイッチのオン/オフを連続して素早く切り替えると、誤動作の原因になることがあります。電源スイッチをオフにしてから再度オンにする場合は、5秒以上の間隔を空けてください。
  - 本体を複数台使う場合は、1台ずつ電源をオンにしてください。同時に複数の電源をオンにすると、電源電圧低下などで本体が正常に起動しないことがあります。

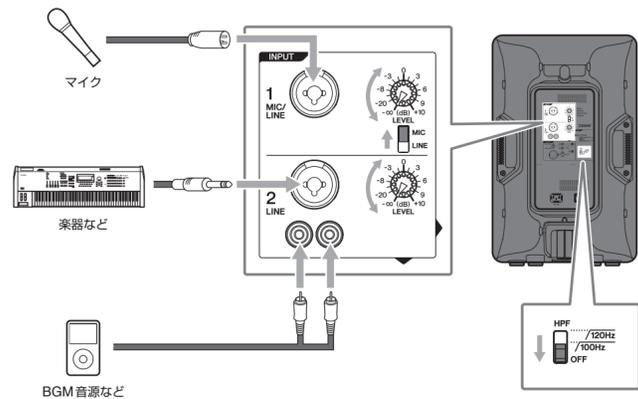
- 16 ネジ穴(M8)**  
別売のブラケットや市販のアイボルトを取り付けるときに使うM8サイズのネジ穴です。
- 17 ボールソケット**  
市販の35mm径スピーカースタンドまたはスピーカボールに対応しています。

セットアップ例

本体1台を使った簡易システム

マイク、楽器、BGM音源などを、ミキサーを使わずにDBRに直接接続する場合のシステムです。主な用途: 小規模ライブ、プレゼンテーション、レストラン

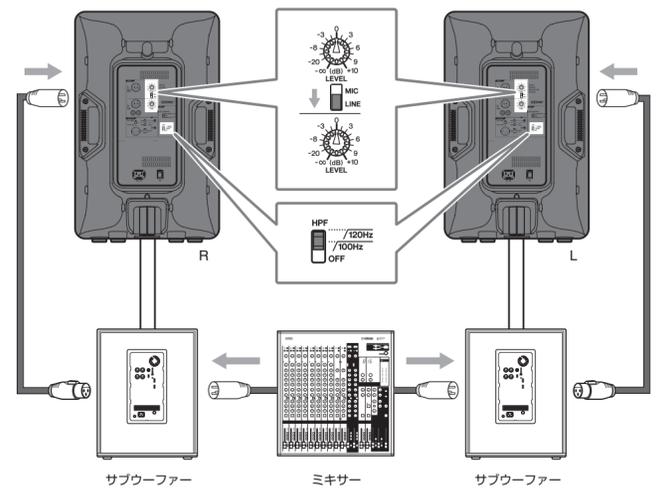
**Note** CH2では、コンボ端子への入力とRCAピン端子への入力が固定のバランスでモノラルミックスされます。バランスを変えたい場合は音源のボリュームを調整してください。



本体2台にサブウーファーを加えたシステム

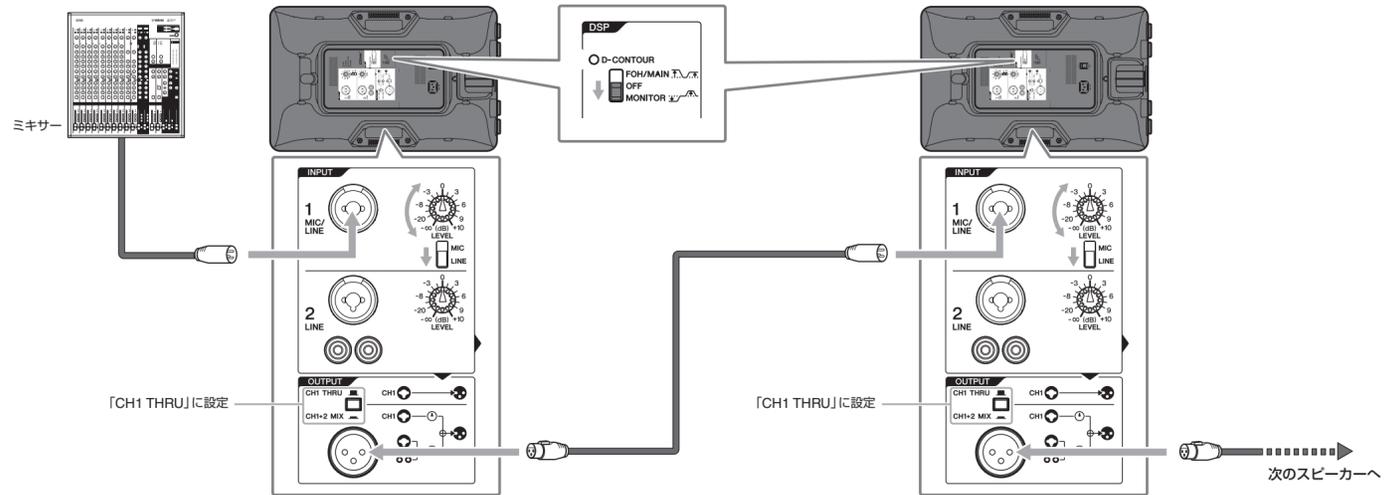
メインスピーカとして最適なシステムです。必要に応じてフロアモニターシステムを追加することも可能です。主な用途: 小規模ライブハウス、教会、イベント会場

**Note** サブウーファーはヤマハDXSシリーズ (以下DXS) をおすすめします。その場合、DBRのHPFのカットオフ周波数と、DXSのLPFのカットオフ周波数を同じ設定にすることをおすすめしますが、お好みに合わせて調節してください。



フロアモニターシステム

演奏者のモニター用途に適したシステムです。フロアモニターでは[D-CONTOUR]スイッチを[MONITOR]にすることをおすすめします。必要に応じて、パラレル接続で4台までスピーカを追加できます。その場合、CH1に信号を入力し、出力切り替えスイッチの設定を[CH1 THRU]にすることをおすすめします。



困ったときは

症状	考えられる原因	対策方法
電源が入らない	電源コードが正しく接続されていない	電源コードを奥までしっかり差し込んでください。
突然、電源が切れた	保護回路が作動して、電源がシャットダウンした	いったん電源をオフにして、アンプの熱が下がるのを待ってから、もう一度電源をオンにしてください。
音が出ない	ケーブルが正しく接続されていない	ケーブルを奥までしっかり差し込んでください。
突然、音が途切れた	保護回路が作動して、出力がミュートされている	アンプの熱が下がるまでお待ちください。自動復帰しない場合は、いったん電源をオフにし、もう一度電源をオンにしてください。
ハウリングする	マイクがスピーカに向いている 音を増幅しすぎている	マイクをスピーカの音を拾わない方向に向けてください。 入力機器のボリュームを下げ、マイクを音源に近づけてください。
スピーカの音が違う (複数台使用時)	スピーカの設定が異なっている	各スピーカの[HPF]スイッチおよび[D-CONTOUR]スイッチの設定を同じにしてください。
音がひずむ	[LIMIT]インジケータが消灯している	[MIC/LINE]スイッチの設定が[MIC]で、音量を下げきっても音がひずむ場合には、スイッチの設定を[LINE]にしてください。[LINE]にしても音がひずむ場合は、入力機器側の音量を下げてください。
	[LIMIT]インジケータが点灯している	[LIMIT]インジケータが時々点灯するレベル以下になるまで[LIMIT]ノブで出力レベルを下げてください。
マイク入力時に音が小さい	[MIC/LINE]スイッチの設定が[LINE]になっている	[MIC/LINE]スイッチを[MIC]に設定してください。
低域と高域のバランスが崩れる	出力リミッターがかかっている	[LIMIT]インジケータが時々点灯するレベル以下になるまで、入力あるいは出力レベルを下げてください。

上記の対策を行っても症状が改善しない場合は、ヤマハ修理ご相談センター(裏面)にお問い合わせください。

